
献 辞

大 場 昌 子

島田法子先生は、1992年4月に助教授として本学英文学科にご着任以来、21年間にわたり学科および大学のために精力的に力を尽くしてこられました。英文学科のアメリカ研究分野の柱として多くの学生を指導される一方、成瀬記念館主事、生涯学習センター所長、総合研究所所長などの役職も歴任され、さらには歴史の研究者として本学における女子教育の歴史を掘り起こすことにも大きく貢献されました。

島田先生の「アメリカ史」の授業は、学生の間では厳しいことで有名でした。1年次の選択必修科目ですので多数の学生が受講しますが、課題も多く、学生はアメリカ合衆国について多面的に理解していくことを求められました。先生がそのように、ある意味厳格にアメリカ研究の基礎教育を学生に施されたことには理由があるように思います。私たちは、英文学科にアメリカ研究分野があることを当然のように受けとめていますが、実際は、第6代学長の上代タノ先生が日本の大学の中でも先駆的に英文学科に同分野を設ける英断をなさったがゆえに、地域研究および歴史研究領域であるアメリカ研究が文学部英文学科にあるのです。島田先生はそうした本学科の特徴である学問領域を確実に学生に伝えることが、ご自身の大きな責務とお考えだったのでしょう。先生の熱意にあふれたご指導を受け、英文学科でアメリカ研究を勉強することの意義を理解した多くの優秀な卒業生が、とくに国際性を求められる分野で活躍しています。

島田先生は、移民研究を専門とされ、近年はことにハワイに移民した日

本人についての研究で学会をリードしてこられました。日系アメリカ人と呼ばれる人々の埋もれてきた声を丹念にすくい上げ、従来となえられてきた歴史に新たな側面を加筆する仕事は、まさにパイオニア精神なくしては成し遂げることができません。抜群の行動力をお持ちの島田先生だからこそできるご研究ともいえましょう。

また、本学の歴史についても、前述の上代タノ先生についてのご研究の成果を共著『上代タノ——女子高等教育平和運動のパイオニア』にまとめていらっしやいます。英文学部出身の上代先生が国境を越えて活躍された事実を私たちがこのご著書によって詳しく知ることができるようになり、女子大の歴史をさらに学びたいと考える人が増えるものと思います。

学科の教育においても、とくに1年次の「基礎英作文」を2年次の「英語論文作成法 I」につなげるためにより効率よく学習するためのプログラム作りにご尽力くださいました。そのお蔭で、和文英訳からパラグラフライティングへのステップアップが円滑に図れるようになったことはいまでもありません。

何事もてきばきと進めていかれる島田先生のお仕事ぶりは、私たちにとって無言の励ましでした。そのような島田先生のご退職を迎え、私たちは心細いかぎりですが、先生の教育、研究に対する姿勢をしっかりと受け継いでいきたいものです。

本号は島田先生のご退職を記念し、広くアメリカに関する各執筆者の力作が掲載されています。

島田先生のご健康と、これからのご研究がますます発展されますことを祈念し、献辞とさせていただきます。
